



Special Feature 02 ▶ 三菱重工グループを支える技術基盤

活動を行うことが重要であり、戦略的にコア技術を獲得しながら、スケール化のビジョンを描きます。例えば、製造が困難なパーツは当社から供給することで、ライセンス先を拡大し、顧客や地域を拡大することができます。

ΣSynX — 異分野をかしこく・つなぐで新たな価値を創出

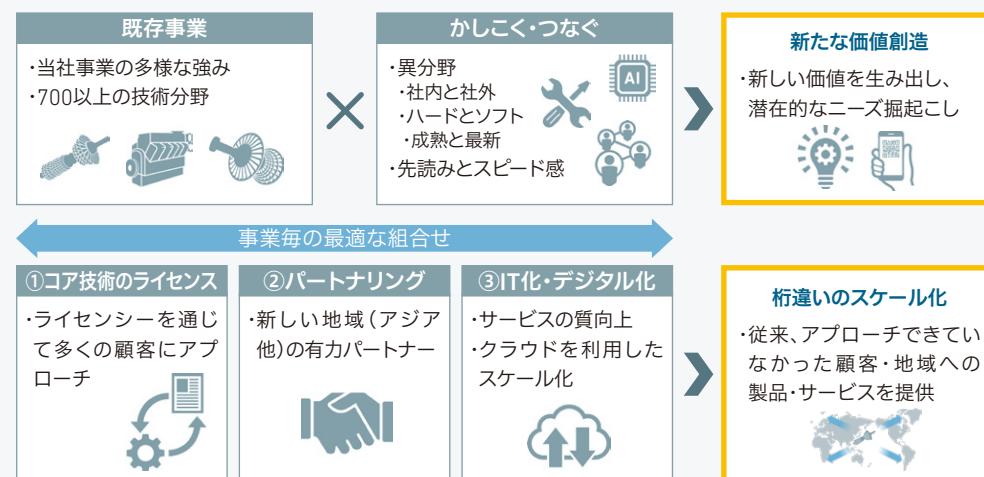
「ΣSynX(シグマシンクス)」は、当社グループが掲げる異分野の融合を通じて新たな価値を創出するためのコンセプトです。多様な製品やサービスをかしこく・つなぎ、当社グループが持つ人、組織、技術を最大限に活用して、新たな価値を世の中に提供することを目指しています。

異なる技術や業界の専門知識を組み合わせることで、従来の枠を超えた新たな価値の創出をねらいます。これまでに蓄積した多様な製品・技術を基盤として、従来とは異なる分野と連携することが

ポイントであり、異分野をかしこく・つなぐことで生まれる新たな価値の可能性は無限大です。例えば、機械工学の分野において、AI技術や膨大な運用データの解析を組み合わせることで、機械の知能化を進め、効率的なオペレーションやメンテナンスの実現が可能になります。また、環境問題への対応として、エネルギーをかしこく使うためのエネルギー・マネジメントシステムを既存の製品に組み合わせることで新たな価値提供を実現できます。異分野をかしこく・つなぐというアプローチは、急速に変化する社会ニーズに対応し、持続可能な成長を実現するためのカギとなります。

領域拡大について

領域拡大 衍違いに多くの顧客を通じ、スピード感をもって新たな価値で社会の進歩に大きく貢献する



技術の革新と伝承

当社グループは、長い歴史の中で培われた技術に最先端の知見を組み合わせ、変化する社会・顧客のニーズに応えることをミッションとしています。ものづくりを支える技術の革新と伝承に同時に取り組み、技術基盤を維持・強化していきます。

技術基盤の革新

当社グループは、1884年の創立以来、長年にわたり製品開発に必要な技術を蓄積してきました。かつてはライセンシーとして欧米から技術を導入した当社グループは、得た知見をベースに研究を重ねて自主技術として高めてきました。特に、ものづくりにおいて必要不可欠な技術(古典力学に関わるような流体、熱、振動、構造強度などの技術)を基軸に技術開発に取り組むとともに確実に伝承し、強みとなる技術(例えば、製造、制御などの技術やシミュレーション技術など)を磨いてきました。

これらの技術を使い、さまざまな製品・サービスを開発し、また、ある製品開発で培った知見・ノウハウを、シェアードテクノロジー部門を通じて他の製品開発に展開できるようマネジメントしています。





Special Feature 02 ▶ 三菱重工グループを支える技術基盤

技術の伝承

当社グループは、製品開発に欠かせない古くからの基礎技術を重視し、それを現代に適応させながら伝承しています。成熟して新規の研究テーマを創出しにくく、大学などの教育機関で取り上げることが難しくなった技術であっても、製品の製造においては欠かすことができません。これらの技術を社内でしっかりと保持し、磨き続けることで、技術基盤を維持しています。

当社グループでは、「約50のコア技術」とそれを細分化した「700超の技術分類」を定義して技術開発に取り組み、そのコア技術、技術分類ごとにリーダーを配置し、技術の継承と開発に同時に取り組み、競争力を強化しています。

オープンイノベーションにも力を入れており、世界中の大学や研究機関、企業、ベンチャーとの連携を通じて、技術の最先端を探求し、製品開発に必要な技術を高めるとともに、当社グループのミッシングピースを補完する取り組みを推進しています。例えば、流体・ターボ機械の分野で、ケンブリッジ大学やマサチューセッツ工科大学と共同研究を行うなど、常に技術レベルの向上に努めています。

また、生成AIなど、技術開発のスピードが速い分野では、最新の技術動向を注視して情報を収集し、製品・サービスの付加価値を上げるための活用方法および実装に関する技術開発に注力しています。

このように、当社グループは、今後も、技術の伝承と進化、そして市場の先を見据えた製品開発により、常に変化する社会に対し、新たな価値を提供し続ける企業で在り続けます。

製品軸と技術軸

